

## A-1 社会の諸課題の可視化

- 弊財団においては、優先的に解決すべき社会の諸課題についてのデータを活用し、より見やすい、広めやすい形で現状を可視化し、明確な形で社会に発信することで、国民一般の社会問題に関する認知、理解を高めていく。

### 参考事例

BuzzFeed Japanでは震災復興の現状について、政府機関等が公開しているデータを一般国民がわかりやすい形に加工し、見やすい形で情報を発信することで、国民一般の社会問題に関する認知、理解を高める。

#### 汚染土と廃棄物の仮置場などにおける保管量



制作: BuzzFeed Japan

出典: 環境省・福島県

#### 避難指示区域と避難者数



出典: 環境省

制作: BuzzFeed Japan

## B-1 顔の見える情報コンテンツ発信

- 民間公益活動団体の現場の担当者取材をすることで、団体の活動内容だけでなく、自身の経歴や活動にかける思い、目指す社会の姿など共感性の高いコンテンツを作成、発信する。

### 参考事例

Webメディア「70seeds」では、社会問題を扱う現場団体に取材をして、インタビュー形式で顔の見える形でコンテンツを発信している。



2018.2.25



2018.2.24



2018.2.7



2018.1.17



### 武器からできたアクセサリ

カンボジアの支援をしていくプロジェクトの一つ「武器から作られるアクセサリ」の制作・販売の支援プロジェクトが始まったのは、2017年のことだ。

このプロジェクトではクラウドファンディングを行い、100万円以上の支援が集まった。活動のきっかけは、岡田さんと現地のアクセサリ職人Chantaさんとの出会いだった。

「同じくカンボジア支援をしている方から『銃弾からアクセサリを作っている人がいたわよ』と教えてもらったんです。私は以前、カンボジアの地雷掃討活動で、銃弾や砲弾を叩いてアクリル板にしたり、紙にされているのを見たことがありました。その記憶とリンクして、ぜひ平和へのヒントを得たいとChantaさんと会ってみることにしたんです！」（岡田さん）

「Chantaさんは、幼い頃に母と別れて、ガムボト軍の兵隊で父も亡くした、本当に大変だったときの話をしてくれました。今は平和を求めてアクセサリを作っていると聞いて、私は、そのとき持っていた全ての資金のアクセサリを購入しました！」（岡田さん）

現在Chantaさんは、CSRのクラウドファンディングによる支援や経済的な活動を



## B-2 社会的インパクトレポートの配布

- 社会的インパクト評価を一般国民が理解しやすい形に再編集しレポートにまとめ、ウェブサイト及び紙媒体で配布する。

### 参考事例

1941年にイギリスで発祥した世界33カ国220箇所以上の拠点を持つ非営利の冒険教育機関であるアウトワード・バウンドは、年に1回社会的インパクト評価に関するレポートを作成している。

### THE OUTWARD BOUND TRUST'S THEORY OF CHANGE

#### OUR APPROACH: WHAT IT MEANS TO BE OUTWARD BOUND®:

##### IN THE OUTDOORS

Participants experience a variety of challenges that are designed to build confidence, resilience, and self-reliance. These challenges are designed to be both physically and emotionally demanding, and to require participants to work together to overcome them.

##### IN THE REAL WORLD

All participants experience a variety of challenges in the real world that are designed to build confidence, resilience, and self-reliance. These challenges are designed to be both physically and emotionally demanding, and to require participants to work together to overcome them.

##### THE RESULTS

Participants who complete the course are more confident, resilient, and self-reliant. They are also more likely to take on challenges in the real world, and to work together to overcome them. This is because the course is designed to build confidence, resilience, and self-reliance, and to require participants to work together to overcome challenges.

##### THE RESULTS

Participants who complete the course are more confident, resilient, and self-reliant. They are also more likely to take on challenges in the real world, and to work together to overcome them. This is because the course is designed to build confidence, resilience, and self-reliance, and to require participants to work together to overcome challenges.

#### WHAT HAPPENS DURING A COURSE:

Participants experience a variety of challenges that are designed to build confidence, resilience, and self-reliance.

Participants experience physical and emotional challenges in the real world that are designed to build confidence, resilience, and self-reliance.

Participants approach tasks that require planning and problem-solving, and reflect on their performance.

Participants live and work with others.

#### WHAT THIS ACHIEVES:

Participants become more aware of their capabilities and develop confidence and self-reliance.

Participants develop perseverance, resilience, and problem-solving skills.

Participants become more confident, resilient, and self-reliant.

Participants live and work with others.

#### WHAT THIS MEANS FOR YOUNG PEOPLE:

Participants become more confident, resilient, and self-reliant.

Participants develop perseverance, resilience, and problem-solving skills.

Participants become more confident, resilient, and self-reliant.

Participants live and work with others.

Participants become more confident, resilient, and self-reliant.

Participants develop perseverance, resilience, and problem-solving skills.

Participants become more confident, resilient, and self-reliant.

Participants live and work with others.

The Outward Bound course acts as a catalyst for positive change. The positive results seen from small changes encourage further change, and that young people continue to develop following their Outward Bound course.



The environment in which participants return after the course must provide opportunities for them to continue to develop.

### Our Impact Themes

At Brings, we seek out investable solutions to pressing societal challenges within four impact themes. We employ a variety of different strategies to deliver impact, and measure our impact performance across multiple criteria using our Impact Trade-In. Below are a few headline numbers from the last year.



## B-3 各メディアとのタイアップ・パブリケーション

- テレビ、雑誌等各メディアが社会問題を取り上げる際にタイアップ。
- データや現場団体を紹介しつつ、指定活用団体の活動内容についても宣伝をしてもらう。

### 参考事例

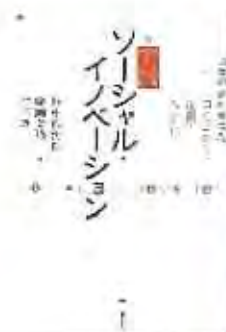
NHKやビジネス誌等では、定期的に社会問題やその解決のための取組みが取り上げられている。こうしたメディアで使用するデータの引用元、記事の情報源として、指定活用団体が協力していくことで、成果を社会に発信していく。

#### テレビの特集・ニュース



ハードネットTV 「高齢者のケア」特集とともに、第1回「認知症の悩み」

#### 書籍

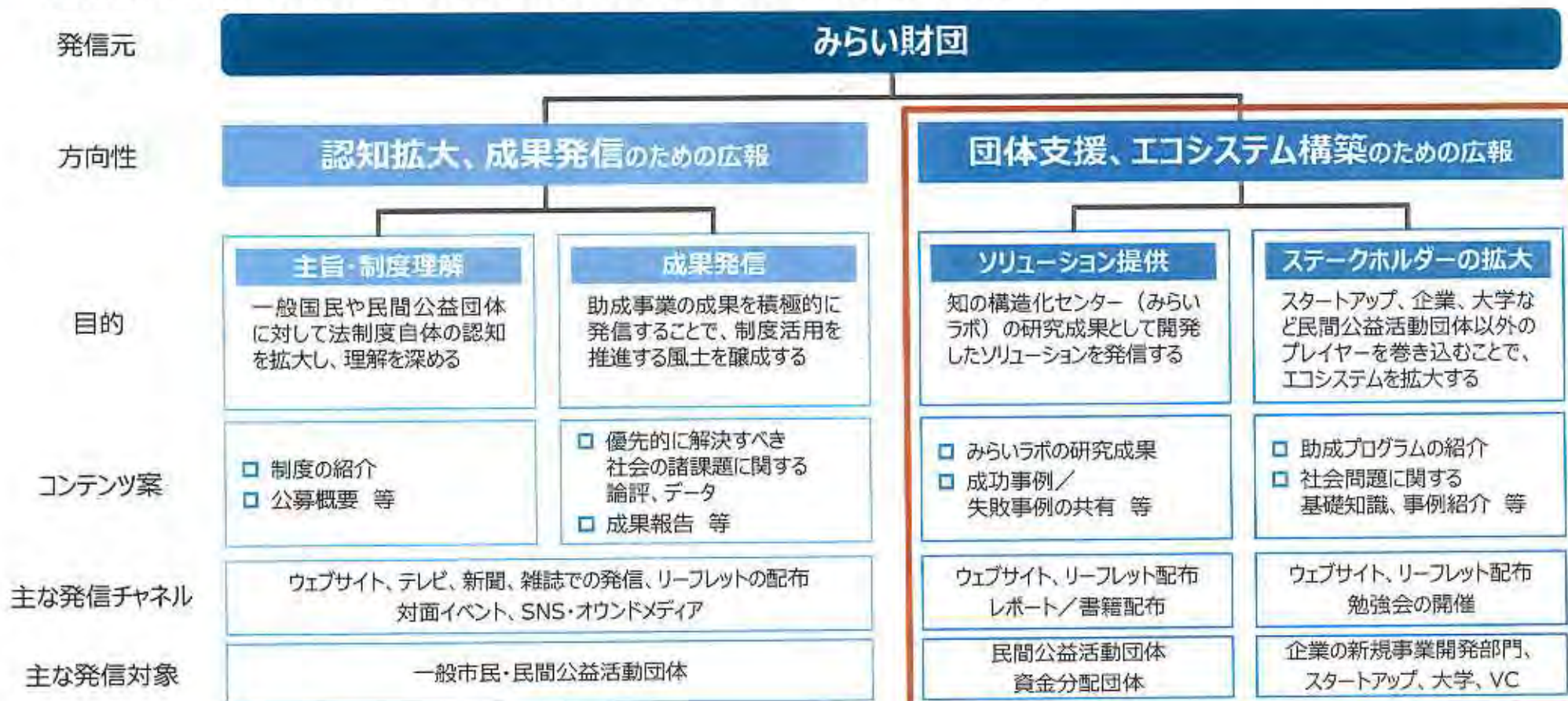


#### 雑誌



## 基本的な考え方（再掲）

- 弊財団においては、「認知拡大、啓蒙のための広報」と「現場団体支援のための広報」の2つの方向性にわけ、発信対象者を明確にした上で、目的や期待する効果に応じて適切な施策を立案し、実行していく。



次ページから掲載

## ソリューション提供

- 知の構造化センター（みらいラボ）では、資金分配団体から収集した各プロジェクトの情報を集約し、それを元にプロジェクト横断的な分析を実施し、課題解決を実行する際のメソッドとしてまとめ、民間公益活動団体が活用できるように公開する。また、分析を通じて課題解決のためのベストプラクティスを発掘し、社会一般に情報を発信する。



## ソリューション提供：A. メソッドの確立

- みらいラボでは課題解決のためのメソッドを確立し、積極的に公開していくことで、現場団体がより効率的に、より効果的な施策を実行できる環境を整備していく。

### 参考事例

アメリカのコンサルティング企業のFSGでは、ソリューションについてのナレッジを動画やテキストで整理して社会と共有している（左）。また、ソリューションについての情報を冊子にまとめており、無料で入手できる（右）。

#### Collective Impact



##### What is Collective Impact?

Understand about what FSG researchers have identified about what it takes to create lasting, positive impacts on your community. [Learn more](#)

##### The Evolution of Collective Impact

Learn more about the evolution of collective impact and how it has changed over time. [Learn more](#)

#### How to Lead Collective Impact Working Groups



<https://www.fsg.org/tools-and-resources>





## ステークホルダーの拡大

- 社会起業家の支援団体やビジネスプラットフォームと積極的に繋がることで、起業や新規事業立ち上げへの休眠預金の利活用を推進すると共に、新たな資金分配団体の擁立や伴走支援団体とのリレーションを構築し、ステークホルダーを拡大、エコシステムの拡大に繋げていく。



- 助成プログラムの紹介の開催案内
- 社会問題に関する基礎知識、事例紹介 等

## ビジネスプラットフォームの事例

- 既存のビジネスプラットフォームを運営する企業にアプローチし、勉強会やネットワーキングイベントに参加する等して、参画企業とリレーションを構築していく。

### 参考事例

Eiiconでは企業が集まるビジネスプラットフォームを構築し、イベントや勉強会の開催等を通じて、企業の新規企業開発部門やスタートアップとのリレーションを構築している。

The screenshot shows the Eiicon website interface. At the top left is the 'eiicon' logo. A search bar contains the text '新しい出会いや商機'. To the right are links for 'eiiconについて', '無料登録', and 'ログイン'. A navigation menu on the left lists: '共創パートナーを探す', 'おすすめ特集', '新着企業ピックアップ', 'イベント情報', 'eiicon lab', and 'ライブラリー'. The main content area features a central banner with the headline '登録社数3,000社突破！' and 'あの大手企業から、スタートアップまで提携先を探している企業にコンタクト'. Below this is a sub-headline '価値ある出会いが未来を創る オープンイノベーションプラットフォーム eiicon' and the tagline '誰もが、提携先パートナーと出会う時代へ'. Two buttons are present: '法人検索を試してみる' and '無料で登録する'. A small notification bubble says 'ページ公開中！ 共創パートナーを募集しています！'. At the bottom, a row of logos for partner organizations is displayed: SAN KEN, imeleap, BIINSCO, media cloud, Tech elementary, ON, JFD, aperza, and YAMAP.

## ステークホルダーの拡大ベンチャー向けイベント・団体

- 起業家支援団体やベンチャーの活動拠点、ピッチイベントなど、起業家とそれを支援する団体が集まる場所に積極的にアプローチし、新たな資金分配団体を擁立したり、伴走支援団体のリレーション構築をすることで、休眠預金を活用して社会問題を解決するプレイヤーを育成していく。

■ 東海若手起業塾とは






Incubation & Innovation Initiative (I<sup>3</sup>) は、日本の成長戦略の要となる先端技術の若い技術シーズやビジネスアイデアの「事業化」を支援し、日本経済の活性化に貢献することを目的として、株式会社日本総合研究所が株式会社三井住友銀行と共に設立した民間非営利による「社会開発コンソーシアム」です。

Incubation & Innovation Initiative (I<sup>3</sup>) is a consortium for developing new business, established by the Japan Research Institute and Sumitomo Mitsui Banking Corporation. In collaboration with many different industries, I<sup>3</sup> aims at promoting the commercialization of new technologies and business ideas in order to drive the future economic growth of Japan.

## 策定の意義

- シンボルマークについては、以下の3つを重視して策定する。

### 休眠預金等に係る資金の 活用状況の可視化・透明性の確保

助成を受けた団体のウェブサイトや外部公開資料等にシンボルマークを掲載することで、事業運営において資金が活用されていることを可視化する。

### 国民一般の参加と周知

シンボルマーク自体やその策定プロセスをコンテンツとして発信し、国民一般への周知を図る。

### 民間公益活動団体の巻き込み

シンボルマーク策定プロセスに民間公益活動団体を巻き込むことで、制度理解を推進する。また、弊財団とのリレーションを築くための接点を作る。

## 応募要項

- シンボルマーク案については、以下のような応募要項に基づき、広く社会一般から公募する。

### 応募資格

- 経験、受賞歴の有無は問わない
- 年齢：2019年4月1日時点で18歳以上の方
- 国籍：日本国籍の方及び日本在住の外国籍の方（日本国内の住民票をお持ちの方）
- 個人またはグループでの応募も可能
- 応募点数は1人（1グループ）1点限りとする

### 提出方法

- 新設の専用ウェブサイトから所定のフォームを使って申込み

### 結果発表

- 専用サイトならびに弊財団のウェブサイト、SNS等で発表
- 氏名の公表については当人と相談の上、決定

### 賞金・賞品

- 採用作品に対する賞金を付与する：100万円（税込み）